

運動クラブ崩壊の原因

—とくに庭球クラブと排球クラブについて—

天野菊三郎・原田秀雄・稲山沢子

I 調査の目的

クラブが共通の関心をもった友人同志によって結ばれ、共に学び、共に楽しもうとするその欲求を、正しい方向に健全にのばしてやることは指導者としてとくに留意しなければならない点である。4月の学期始めにクラブ員を募集し、活動に入った本校の運動クラブの中で、学期が進むにつれてクラブ員のうちから一人二人と活動からぬけてゆく者がでて、半年足らずの間にクラブ活動を始めた当時の半数、あるいはそれ以下になってしまったクラブに庭球クラブと排球クラブがある。この二つのクラブについて、そのクラブ崩壊の原因を究明しようとするのが本研究の目的である。

II 調査の方法

- 1.) 調査の期日。 昭和30年10月中旬。
- 2.) 調査の対象。 本校庭球クラブ員全員（中・高・男・女 計111名）
本校排球クラブ員全員（中・高・男・女 計72名）
- 3.) 調査の要点。
 - (1) クラブ活動への参加の状態。

- (2) クラブ選択の動機。
 - (3) クラブ活動へ参加しなくなった理由。
- 以上三項目について質問紙法により調査。

III 問題の設定

- 1.) クラブへ入る動機の中にクラブ崩壊の原因を見出せないだろうか。
- 2.) 現在クラブ活動に参加している者と活動を途中でやめるようになった者との間に、何か異った要素がみいだせないだろうか。
- 3.) クラブ活動を途中でやめるようになった理由の中からクラブ崩壊の原因を抽出できないだろうか。

IV 結果の整理

- 1.) クラブ活動への参加の状態。(第一表)

第一のように現在クラブ活動に参加している者は庭球クラブで(47名(42.3%))、排球クラブで21名(29.1%)という数字を示し、残りの57.7%、70.9%のクラブ員は事実上クラブ活動から脱落していったものとみなすことができる。さらにそれを学年別にみると、上級生のほとんどが活動を途中でやめてしまっていることがわかる。こうしたクラブの状態ではクラブが崩壊したといわれても

| クラブ員 | 庭球クラブ | | | | | | | 排球クラブ | | | | | | |
|---------------------|-------|----|----|----|----|---|-------------|-------|----|---|---|---|---|-------------|
| | 中 | | | 高 | | | 計 | 中 | | | 高 | | | 計 |
| | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | |
| 現在クラブ活動に参加している者 | 17 | 7 | 8 | 15 | 0 | 0 | 47名 (42.3%) | 13 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21名 (29.1%) |
| クラブ活動にほとんど参加しなくなった者 | 11 | 12 | 8 | 18 | 11 | 4 | 64名 (57.7%) | 13 | 11 | 8 | 8 | 8 | 3 | 51名 (70.9%) |
| 計 | 28 | 19 | 16 | 33 | 11 | 4 | 111名 | 26 | 19 | 8 | 8 | 8 | 3 | 72名 |

(第一表) クラブ活動への参加の状態

運動クラブ崩壊の原因—とくに庭球クラブと排球クラブについて—

しかたあるまい。

2.) クラブ選択の動機。(第二表)

第二表のように、全体的にみると、競技そのものに対する興味とか友人関係による者が60%前後を占めていることで、生徒のクラブ選択に対する考え方が、いわゆるクラブとしての自然の形を

とっていることを示している。しかし両クラブとも現在クラブ活動に参加している者のクラブ選択の動機と、クラブ活動にほとんど参加しなくなった者のそれとの間にはほとんど差を認めることはできない。

| 動機 | クラブ クラブ員 実数% | 庭 球 ク ラ ブ | | | | 排 球 ク ラ ブ | | | |
|-----------------------|--------------------|-----------------|------|---------------------|------|-----------------|------|---------------------|------|
| | | 現在クラブ活動に参加している者 | | クラブ活動にほとんど参加しなくなった者 | | 現在クラブ活動に参加している者 | | クラブ活動にほとんど参加しなくなった者 | |
| | | 実数 | % | 実数 | % | 実数 | % | 実数 | % |
| 人にすすめられて | | 5 | 7.2 | 21 | 21.4 | 6 | 19.4 | 12 | 15.0 |
| 友達と一しよに活動したい | | 7 | 10.1 | 10 | 10.2 | 6 | 19.4 | 11 | 13.8 |
| 競技そのものに対する興味 | | 33 | 47.8 | 47 | 47.9 | 13 | 41.9 | 41 | 51.3 |
| 選手になることや試合に出ることへのあこがれ | | 6 | 8.7 | 1 | 1.0 | 1 | 3.2 | 3 | 3.8 |
| 実利的な目的 | | 18 | 26.1 | 19 | 19.4 | 5 | 16.1 | 13 | 16.3 |
| 計 | | 69 | | 98 | | 31 | | 80 | |

(第二表 クラブ選択の動機)

3.) クラブ活動へ参加しなくなった理由。(第三表)

| 理由 | クラブ 状態 数実% | 庭 球 ク ラ ブ | | 排 球 ク ラ ブ | |
|----------|------------------|---------------|------|---------------|------|
| | | 活動に参加しなくなった理由 | | 活動に参加しなくなった理由 | |
| | | 実数 | % | 実数 | % |
| 施設用具の不足 | | 15 | 11.0 | 4 | 3.6 |
| 活動方法への不満 | | 25 | 18.4 | 20 | 18.2 |
| 技術的な理由 | | 0 | 0 | 4 | 3.6 |
| 対人関係 | | 13 | 9.5 | 10 | 9.1 |
| 活動意欲の欠除 | | 37 | 27.2 | 33 | 30.0 |
| 身体的故障 | | 11 | 8.1 | 8 | 7.3 |
| 功利的な理由 | | 35 | 25.7 | 31 | 28.2 |
| 計 | | 136 | | 110 | |

(第三表 クラブ活動へ参加しなくなった理由)

上の表よりわかることは30%近い数字を示すところの活動意欲の欠除、および功利的な理由が第一にあげられ練習方法への不満がそれについている。

推進力となってクラブ員をリードしてゆくのが普通である。それが何故本校においては両クラブとも上級生が活動しなくなるのであろうか。まず第一に考えられることは上級生と下級生の技術差が

V 結果の考察

以上三つの表を整理した結果クラブ活動を途中でやめるようになった者は上級生に多いこと、動機にはそうしたものの原因となるようなものはほとんどないこと、クラブ活動をやめるようになる理由には、活動意欲の欠除、功利的理由、練習方法への不満の三つが大きくあげられていることであった。

1.) 上級生がクラブ活動を途中でやめるようになった原因。

一般のクラブ活動の場合、上級生はクラブ活動の中心となり

あまりないことがあげられよう。本校の特殊事情で学校移転にともなって前年度までクラブが設置されて居らなかったことがその原因であろう。上級生に他校のような高度の技術をもっている者が少なく、下級生に対して技術指導のともなったクラブ運営ができず、かえって下級生に人数のうえから圧力をかけ、常に押され気味でクラブの統制がとりにくい現状である。個人ゲームである庭球クラブの場合においてもそうであるが、とくに排球クラブのようなチームゲームのクラブにおいてはそれがはなはだしい。そこで下級生から「上級生が指導してくれない」とか、「一しよにやってくれない」というような不満を受けることや、一方上級生自身は、「技術が下手だから下級生と一しよにやるのは恥ずかしい」というような理由をあげてクラブ活動からぬけてゆく者がでる。次に功利的な理由によることが考えられるが、このことについては後にのべる。

2.) 活動意欲欠除の原因。

第三表にみられるように全体の30%をしめるこの項目の内容は、「何となく気が進まなかったから」「皆がやらないから」「他に自分の用事があったから」「家の用事があつたから「やっているうちにきらいになってしまったから」というように活動に対する意欲がなくなってしまう者である。それが単にそれだけの原因か、他に原因があってそうなったのか、判断できないのであるが、いずれにしてもこういう所に何か問題があるような気がする。たとえば「いつもあとかたづけをさせられるから」とか、「休んでもしかられないから」というような組織や活動方法との関連も考えられよう。

次に、本校の方針である対外試合を認めていないということも、他の中学校で選手を経験してきた一部高校生の中で試合をクラブ活動の目標としてきた者や、そういうことを望む者にとってはクラブ活動に目標を失い、活動意欲を喪失するようになる。又上級生の大部分が活動からぬけることは、クラブの運営、統制という点から、リーダーのいなくなったクラブが動きのとれない状態となり下級生クラブ員の活動意欲を減退させていると

いうことも考えられる。

3.) 功利的理由のでてくる原因。

ここでの問題は矢張り学業と運動クラブ活動とを両立させ得るかどうかということである。全体の30%近い数字を示すこの項の内容を分析してみると、「学業成績が思わしくなかったから」「疲れて勉強ができないから」「進学準備がいそがしいから」「クラブ役員をすることが負担になるから」という順で上級生に多いということも当然であろう。しかし問題は本当に運動クラブ活動が、上にあげたような理由から、やめなければならない程の負担になっているであろうか。週二日、放課後2時間足らずの現在行なわれているような活動が、それ程身体的、時間的負担になっているとは考えられない。

4.) 活動方法への不満の原因。

前にのべたように、今年をはじめ運動クラブがつくられ、活動をはじめたときどういう練習方法をとるかが問題になった。上級生、とくに高校生は自分たちが今まで経験してきた、それぞれの中学校におけるやり方や、みききする他校のやり方を参考にして、施設・クラブ員数・学年・性別などの制約の下に練習方法を考えたが、なかなか満足なものは得られなかった。このことはクラブ活動に参加しなくなった理由に、「練習方法が気に入らない」「先生や上級生が指導してくれない」というような表現となって20%近い数字を示している。

次に庭球クラブにおける施設とクラブ員数とのアンバランスが考えられる。全生徒数の25%にもあたる111名のクラブ員に3面のコートでは、1人当たり週2日の練習日をとると、毎日1コートで10数名が活動することになる。このことはある程度技術的にも進歩した一部高校生を除きほとんどが試合もできない初心者クラブ員の多い現状では、クラブ員全員がそろって練習するなどということは到底考えられず、練習組織とか技術指導の面から活動方法への不満が出てくることは見のがせない。一方排球クラブにおいては72名のクラブ員も中・高・男・女にわけてみると、2チームによりゲームのできるだけの人数があるのは中学女

子だけとなる。しかしこの中学女子も37名のうち19名までが一年生で占めている現状はいろいろな面で活動方法への不満のあらわれるであろうことも見のがし得ない点であろう。

以上いろいろな角度からクラブ崩壊の原因を探ってみたのであるが、今後にまだまだ究明しなければならない問題が残されている。それらの中にはクラブ活動が永続することによって次第に解消してゆく問題もあれば、施設の問題のようにいかんともし難いもの、大学進学難の現状が続く限り解決し難いと思われる問題などいろいろである

うが、生徒たちが楽しいクラブ活動を続けられるよう、又クラブ活動に対する考え方や、クラブ活動本来の目的を逸脱しないよう留意して指導していきたい。折角楽しいクラブを求めて参加したにもかかわらず、半年足らずの間に半数以上の生徒が活動に不満をもちクラブ活動を去っていったということの半面には私たち指導者の指導の不足ももちろん大きな原因となっているにちがいない。今後さらに問題を究明し、すべての生徒が運動クラブ活動を本当に楽しめるようにしてやりたいものである。 (完)